



2019年9月17日

各位

会社名 株式会社フリークアウト・ホールディングス  
代表者名 代表取締役社長 Global CEO 本田 謙  
(コード番号：6094 東証マザーズ)  
問合せ先 取締役 C F O 永井 秀輔  
(TEL. 03-6721-1740)

### 業績予想の修正に関するお知らせ

当社は、2019年9月17日開催の取締役会において、以下のとおり、最近の業績の動向等を踏まえ、2019年5月27日に開示した2019年9月期（2018年10月1日～2019年9月30日）の通期連結業績予想数値を修正することとしましたので、お知らせいたします。

#### 記

#### 1. 修正の内容

2019年9月期通期連結業績予想数値の修正(2018年10月1日～2019年9月30日)

	売上高	営業利益	経常利益	EBITDA	親会社株主に 帰属する当期 純利益	1株当たり当 期純利益
前回発表予想(A)	百万円 19,000	百万円 100	百万円 200	百万円 700	百万円 —	円 銭 —
今回修正予想(B)	21,500	△1,300	△1,400	△500	—	—
増減額(B-A)	+2,500	△1,400	△1,600	△1,200	—	—
増減率(%)	+13.2%	—	—	—	—	—
(参考)前期実績 (2018年9月期)	14,745	△532	307	843	25	1.94

#### 2. 修正の理由

当社は2019年5月27日付で、「関連会社であるM.T. Burn株式会社の解散及び通期業績予想の修正に関するお知らせ」を開示しております。

当該時点から、主にPlaywire, LLCを新規連結したことにより海外広告事業を中心に売上高が大幅に増加したことから、売上の連結業績予想を修正いたしました。

一方で、国内広告事業においては、主に取扱額最上位の大手メディアに関連する売上が第3四半期より大幅に減少したことに伴い、当初想定していた営業利益のうち約7割弱が減少する見込みとなりました。また、海外広告事業においても、当初は当期通期での黒字化を見込んでおりましたが、Playwire, LLC の新規連結による利益貢献はありつつも、一部拠点及びM&A先の収益化が遅延したことにより、当期も引き続き営業利益が赤字となる見込みとなりました。さらに、Fin Tech等新規事業においても一過性の費用を当第四四半期において計上する見込みとなりました。そのため、営業利益、EBITDAの業績予想を修正いたしました。

また、経常利益についても上記のほか円高の影響による為替差損が第3四半期までで212百万円程度発生しており、現時点において円安が進行する見込みも特段ないことから、業績予想を修正いたしました。

なお、本日付の「投資事業部門の設立及び新生企業投資株式会社との共同運営によるファンド組成に関するお知らせ」に記載のとおり、ファンドの組成に伴い、当社がすでに保有する一部投資先株式の移管を通じて非連続的な収益が計上され、業績修正が不要となる可能性がございましたが、具体的な移管銘柄及び金額については現在協議中であり、移管による利益貢献は翌期以降となる見込みであることが確定したため、当該移管による影響は加味せず、業績予想を修正することといたしました。

また、親会社株主に帰属する当期純利益については、現在精査中であるため、一旦未定といたします。今後、合理的に予測可能となった段階で速やかに開示いたします。

### 3. 2020年9月期通期連結業績予想について

当社は2019年11月14日付での開示を予定しております2019年9月期決算短信において、2020年9月期の連結業績予想を記載することを予定しております（具体的な金額は、2019年9月末までの直近の状況を加味しながら、現在精査を行っております）。

この点、当社では現在、赤字の子会社、事業、拠点の整理を急速に進めており既存事業の営業利益黒字化が進行していること、Playwire, LLCの通期での収益貢献が期待されること、投資事業におけるファンドへの株式移管による収益計上が見込まれること、当第四四半期における上記の一過性の損失も解消されることから、2020年9月期連結業績予想においては上記影響を反映し、営業利益、経常利益、親会社株主に帰属する当期純利益の各段階損益において、黒字の予想数値を公表する予定です。

以上